

令和元年度第2回「埴町地域公共交通活性化協議会」議事録

日時 令和元年8月27日（火）午後2時00分

場所 埴町役場防災センター3階 会議室

出席委員：16名

（別紙のとおり）（進行：吉成課長）

1. 開会（吉成課長）

2. 会長あいさつ（会長：副町長）

3. 議事

- ・佐藤会長が議長となり議事を進めて行った。

(1) 議案第1号 棚倉・埴線の延伸について

- ・事務局より説明を行った。

鈴木創一委員）これに係る経費はどのくらいか。

事務局）現行の負担割合は、棚倉町と埴町で距離に応じて経費の分担している。現在は、経常経費が53万程度。今回の提案のとおり、延伸した場合、経常経費が70万程度に上がる予定。棚倉町との協議の結果、棚倉町は路線を廃止にしたいという考えが強固にあり、埴町としてはこの路線を利活用して高校生が使える便としたい考えだったので、経費を埴町が全額負担することで路線の維持についてはご理解頂いた。

大竹孝和委員）基本的には、学生の保護者からすればとても良い事だと思う。下校については考えているのか。帰りのバスの接続。あればいいなという所で。

事務局）現段階では検討していないが、東館線があるので下校の時間帯についてはそちらを利用頂ければと思う。高校生や中学生に利用してもらえるような、利用促進のチラシを作成予定なので、その際には皆さまにもご協力頂ければと思う。

大竹孝和委員）矢祭の学生と一緒に乗っていく、借上げのバスが1台あると思うが、利用者が少なく大変だと聞く。そちらとの兼ね合いも出てくると思う。

事務局）事務局としても、保護者が出しているバスがあるのは把握している。それ

以外の選択肢として路線バスでも白河の高校に通学できるという選択肢の一つを増やしたいと思い提案した。

吉成課長) 減っている要因としては、朝の登校は良いが、帰りの下校の際に、部活動をしていると乗ってこれないという所で、JRの白棚線を利用しているのではないか。今後、そういった所でも調整が必要になってくるかと思う。また、先ほど鈴木委員からあった質問について、塙町は過疎地域となっているため特別交付税措置の対象となる。実際町単費での負担は、70万中14万程度になる。棚倉町は過疎地域ではなかったため、どうしてもその点で廃止にしたいという要因があったので補足させて頂く。

全会一致で承認された。

(2) 議案第2号 地域別定額タクシーサービス実証実験について

・事務局から説明を行った。

大友孝和委員) このチラシを見ると、往復できると理解できるが。利用券は片道1枚、往復で2枚ということでもいいのか。

事務局) そのとおりで、往復使うとチケットは2枚必要になる。矢印が分かりにくいのであれば、変更したい。また、往復でチケットが2枚必要なことは明記したいと思う。

事務局) 利用時間については、朝の7時から割増料金がかかる前の夜の9時としたいが、事業者の方々は大丈夫か。

タクシー事業者) 大丈夫。

全会一致で承認された。

4. その他

5. 閉会